

## 丸山久恵さん 100 年インタビュー 最終回



～100 歳のお誕生日を心から祝して～

### ●祐天寺の五本木通り商店街に店舗兼自宅を建て夫婦で独立（34 才）

- 朝 5 時に起きて、夫婦で自転車に乗って近くの世田谷公園へ行ってねえ、バトミントンを 1 時間やってたよ。帰ってから朝ごはん食べて、夫は自転車に新しいふとんを積んで一日 6 件くらいお得意先を回ってた。築地の方まで行ったこともあったよ。私はふとんやカバーをミシンで縫ってたよ。ごはんは商店街のおかずを買うことが多かったねえ。
- 近所に上原謙が住んでたよ。あと、こまどり姉妹。百恵ちゃんも住んでた。上原謙は可愛い娘さんがいてねえ、毎朝、送っていくの。背が高くて恰好良かった。それから近くにアメリカ人の外交官家族が住んでいて仲良くしてたよ。アメリカに干し柿を送ってくれていってね。お返しにチョコレートをくれたよ。
- 渋谷に東横線でよく買い物に行ったよ。東急とかね。主人の同僚の奥さんと待ち合わせして。その人と渋谷のこんもりとした森がある公園で、握り飯や弁当持って行ってねえ、食べようとしてたら学生さんが通って、お握りをすうっと持って行っちゃった。当時は食べるものないし、学生はお金ないでしょ。「もう一個あげるから戻っておいで」て声かけてね、そしたら戻ってきて「すまない」って言ったよ。懐かしい思い出がいっぱいありすぎて、夢の中で大騒ぎするよ。

### ●出産、子育て

- 長男は自宅で近所の産婆さんが来てあっという間に産まれたよ。田舎の母親が手伝いに来てくれてたねえ。健診とか母子手帳なんてそんなもん何にもなかったよ。長女は 3 年後近くの病院で、棒につかまっているうちにすぐ出てきた。
- 子供を叱ったことなんかないよ。通信簿はあったけど成績なんて全然気にしなかった。勉強しなさいって言ったこともない。元気に遊んでくれりゃあいい。先生の言うこと聞かにはダメだよと言うだけ。息子が石ころ持って学校へ行った時も、隣りのお菓子屋さんのおばあちゃんがいさめてくれたしねえ。

### ●夫が亡くなる（70 才）

- 夫は仕事で体を酷使して内臓を悪くして病院に入院してねえ、二人で長野県歌「信濃の国」を最後まで全部歌って亡くなりました。涙が出ましたねえ。私が 70 才の時でした。
- その後のことはあんまりおぼえてなくてね。それから一人で暮らしましたけどさびしくはなかったねえ。ここ（グループホームえん）を勧めてもらって、ずいぶん迷ったけど決めました。人の物をお願いだからとらないでって言いたいだけで、他にこんないい所はないと思って感謝してます。

（聞き書き：長谷川洋子、西崎麻子）